

令和2年度第1回大阪市地方独立行政法人大阪市博物館機構評価委員会 議事要旨

1 日 時：令和2年8月7日（金）午後2時00分～午後4時00分

2 場 所：大阪市立東洋陶磁美術館 地下1階 講堂

3 出席者：

【委 員】伊藤委員、栗原委員、佐々木委員、谷川委員、山西委員、吉田委員

【大阪市】経済戦略局山本理事、経済戦略局小林文化部長、萩原博物館支援担当課長
稲垣博物館支援担当課長代理 他

4 議 題：

（1）業務実績評価実施要綱（案）について

（2）法人（博物館機構）評価及び市長評価（案）について

5 議事要旨

（1）業務実績評価実施要綱（案）について

- ・局から資料1に基づき説明。その後、質疑・審議を行い、中項目の評価については次回までに評価方針を整理し、案を提示した上で議論することとなった。

〔主な意見〕

- ・中項目の評価の仕方がロジックモデルの重要なところ。
- ・ロジックモデルを使う以上、ロジックを踏まえてアクションを測るべき。
- ・中項目の評点は、小項目を単純に計算することではない。全体把握の結果のもの。
- ・中項目を評価する際は一定のリサーチが不可欠。法人の事業報告書等を参考にするのも一策。

（2）法人（博物館機構）評価及び市長評価（案）について

- ・局から資料2および資料3に基づき説明。その後、質疑・審議を行い、類似項目や再掲項目の趣旨の違いについて理解した上で評価を行うことや、新型コロナウイルスの影響について一定の考慮を要することなどを念頭に置き、大阪市の評価と機構の評価について、再度精査し、次回再提案することとなった。

〔主な意見〕

- ・人事関係の評価項目について、単に係長級の職員を計画通り採用していなかったという同一の理由で複数の項目の評価を一律に下げているが、それぞれの項目の趣旨が違はず。それぞれの項目の趣旨に沿って丁寧に評価を行うべき。
- ・当初計画と違っていた時の評価について、例えば人件費削減について、採用できなかったからというだけで評価を下げるのではなく、採用しなくても問題なかったのであれば、高評価

にするべき。

- ・再掲する項目であっても、それぞれの視点が違うのだから、一律に評価が上がったり下がったりすることはないはず。もっと各項目を読み込む必要がある。
- ・新型コロナウイルスによる影響による休館期間中は法人の経営努力ではどうしようもできないものであるので、その期間については、評価としてはノーカウントとして、休館期間を除いた 11 ヶ月分でそれぞれの項目の評価の判断をすべき。
- ・異なった活動をする 6 館をまとめて評価することは難しい。一定の評価方針が今後必要では。
- ・評価目標を達成していないのに高評価のものがある。機構は評価を再度見直し、事務局もそれらを再度精査する必要がある。

6 会議資料

資 料 1 地方独立行政法人大阪市博物館機構にかかる業務実績評価実施要領（案）

資 料 2 業務実績報告書（案）

資 料 3 業務実績評価一覧表（案）

参考資料 1 地方独立行政法人大阪市博物館機構令和元年度財務諸表

参考資料 2 地方独立行政法人大阪市博物館機構令和元年度決算報告書

参考資料 3 地方独立行政法人大阪市博物館機構令和元年度事業報告書